

デンビール さっぱり味新名物



新商品の完成を祝った「味わっ会」

「強靱な翼をもったペガサスの故郷 安城ピルスナー」

地元産大麦で開発第2弾 お披露目



安城産の大麦を使った新商品「安城ピルスナー」―いずれも安城市赤松町で

安城産業文化公園デンパーク(安城市赤松町)内でクラフトビールを醸造する企業「安城デンビール」が、安城産の大麦を使った新しいビールを開発した。地域の農業の支援を目的に始まった地元産大麦の商品づく

りは、今回で2種類目。同社は「消費を拡大し、安城の新名物に育て上げたい」と意気込む。
新商品は「強靱な翼をもったペガサスの故郷 安城ピルスナー」で、15日から販売を始めた。ピルスナーはチェコで生まれたビー



ルの種類。日本でも多く流通しているタイプで、苦みを控えてさっぱりと飲みやすく仕上げられている。

日本人が飲み慣れているピルスナーのビールが欲しいという要望を受け、1年ほど前から構想を練ってきた。「しっかりと冷やし、唐揚げなどに合わせると良い」と同社の石川伸社長。13日に同社が運営するデンパーク内の「地ビール工房&レストラン ホレ・フェスト」で新商品をお披露目する「初仕込みを味わっ会」が開かれ、市民や行政、農

業関係者ら約60人が新しいビールの味を楽しんだ。

同社は新たな安城の名物をつくり農業振興にもつなげようとの思いで、2021年11月から市内の農家らと連携し、ビール用の麦を栽培。23年7月に第1弾となる「安城ペールエール」を発売した。

ピルスナーは1本660円。デンパークのほか、安城を中心に県内のスーパーや酒販店などで販売し、飲食店でも提供する予定で、安城デンビールのホームページで販売場所を公開する予定。
(白名正和)